

参考資料

リニア駅前エリア整備の在り方検討会議 ～公共交通によるリニア駅と既存駅等との アクセス向上～

委員意見要旨

令和3年3月
山梨県

○公共交通によるリニア駅と既存駅等とのアクセス向上について

シャトルバスに関して、FCV開発に積極的な自動車メーカーとタイアップする先進的な取り組みも非常に意味がある。

新しいモビリティに関し、バス交通ネットワーク再生計画や先進バス研究会などとも情報共有しながら進めるべきである。

シャトルバスに関して、速達性・快速性は非常に重要。優先信号、電車のような運賃先払いなど、今のバスシステムにない新しい交通システムを含めて検討するべきである。

○バス交通システムの導入事例について

BRTは専用道を走行するため、他の一般車と一緒に走行することがないので、速達性は非常に優位となる。

専用道の整備において、リニア本線の緩衝帯を利用した直線的な道路では新山梨環状道路を交差するのは構造的に難しいのではないかと懸念されている。

ICカードシステムによるキャッシュレス化を図り、バス利用者の乗降時間を短縮させることは非常に意味がある。

システム本来の特徴や運用・運営について、比較できるようにまとめ、適しているシステムを検討していくべきである。

ホームやバス停に設置したICポールで料金を徴収し、鉄道のようにどのドアからも利便的で安定した乗降ができるものが、シャトルバスに求められている。

名古屋市は、SRTという次世代路面公共交通システムを考えている。シャトルバスをどのようなイメージで運行させるかという目線で各地の導入事例を評価するべきである。

バス利用者の目線として、小井川駅とのシャトルバスは魅力的なものにしていくべきである。小井川駅や小井川駅から先の観光も含めて、プラスアルファの提案がないとただ乗るだけになってしまう。

○リニア駅-小井川駅間のシャトルバスについて

住民の大きな障害とならないように、生活道路の重要性も考慮しながら検討するべきである。

余裕のある構造とする等、シャトルバスとしての機能が十分に発揮できるような方策を検討するべきである。

リニア駅、小井川駅ともに駅側にどのように入って、接続するのかが非常に重要である。十分に検討して、夢のある絵を描いていくべきである。

PTPSや道路改良等で定時性を保つことにより、リニアを使わない人にもリニア駅前エリアと甲府駅、小井川駅を結ぶ、新たな通勤通学の手段の一つとなるため、インフラも含めた整備をするべきである。

○リニア駅からのバス交通ネットワークについて

10年、20年後にバスがどうなっていくかを考えるべきである。路線バスではなく、シェアリングモビリティ、デマンドバス等に形態が変わると思うが、県政としてどのように取り組むか検討していくべきである。

水素エネルギーのバスやタクシーの供給施設を県でくまなく整備することが前提となると、交通事業者や利用者も弾みがつくと思う。水素を県政全体でどのように扱うのかをもう少し出していくと議論も活発になる。

リニア駅ができてシャトルバスを小井川駅まで延ばすことで、現在のバスネットワークの中心である甲府駅との3者で、どのような拠点性を目指すべきかを議論していくべきである。

都市計画と合わせて整合性の取れているか、どのようなビジョンを描くかを含めて議論していくべきである。

○リニア駅-小井川駅間のシャトルバスの整備・運営手法について

連節バスや水素燃料バス、EVバス等のシャトルバス自体で魅力のあるシステムをつくるべきである。

事業者のみで設備投資していくのは厳しい。できるだけ行政で支援するシステムとしていくべきである。

シャトルバス等の定時性の確保された交通を導入することは、通勤通学にとって非常に重要である。県としてどうあるべきかということから整備・運営方法について検討するべきである。

甲府市では、リニア駅から甲府駅とのアクセスを重要視しており、本市の地域公共交通網形成計画で検討する。今後、県やバス事業者と連携して検討していきたい。

甲府駅とのアクセスと合わせて整合性をとって検討していくべきである。

シャトルバス利用者の4,700人という推計が、現実的なものか再度検証するべきである。

シャトルバス利用者を現況から類推するのは至難の業である。現況からではなく、時間的なポテンシャルが劇的に変わるところからものを考えるべきである。違う視点から議論することも必要である。

公共交通の在り方が大きく変わる可能性があり、需要が読めないのでは。観光等とセットである程度需要が見込めると考えるか、場合によっては開業してから様子を見てから考えるのか、その選択を将来的に迫られる。

観光分野でどのくらいのポテンシャルがあるかを掘り起こすことも必要である。リニアによって脚光を浴びる地区が出てくる。短期的には、個人のニーズに応えていくことになる。

小井川駅に魅力があり、そこから観光地へ行けるような観光MaaSと連動した整備が出来れば良い。交通の不便さもあり、知られていない観光地もある。リニアをうまく活用して考えていくべきである。